

はじまりのタネ

こ ん な **本**



**読**んでみて

April - May 2018

No.70


## 目次

リニューアルしました。	1
はじまりのタネ	2
Book design の世界 vol.1	8
ちょこちょこ日記 #10	12

## こんな本 読んでみて リニューアルしました。

三重短期大学附属図書館が発行しているフリーペーパー『こんな本読んでみて』は、2005年からはじまりました。これまで図書館スタッフや図書館ボランティア部のメンバーがたくさんの本を紹介してきました。

そして今回、No.70を迎えたのを記念して、誌面をリニューアルすることにしました。No.1発行の時の「すてきな本をあなたに届けたい」その思いは変わらずに『こんな本読んでみて』は続いていきます。

三重短期大学附属図書館 

# 「はじまりのタネ」



何かを始めたいあなたへ。図書館のそこかしこに、たくさんの「はじまりのタネ」が隠れています。始まりの季節に、あなただけのタネ。育ててみませんか。



## 「ヘアゴム1本のゆるアレンジ」

工藤由布 著 セスン&アイ出版  
595.4||Ku 17



毎朝、決まらない髪型にがっかりしながら家を出ます...そんなあなたに。意外と難しいゆるふわアレンジがヘアゴム1本からできるコツをヘアスタイリストさんが教えてくれます。これで前から見ても後ろから見てもおしゃれ感UP☆見ながらヘアアレンジできる、開きやすい作りの本なのもポイント高いです！

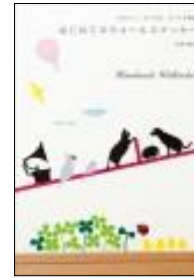


## 「わたしのおべんと帖」

徳永奈都子 著 マイナビ出版  
596.4||To 41



大切な人のためにお弁当を作って手紙のように渡しているという著者の徳永さんのお弁当のルールを少しマネして、わたしのお弁当を作りたいと思います。「五味五色＝色と味のバランス」作りに役立つ【緑・茶・赤・黄・白】の五色の小さいおかずも掲載。こんなおいしそうなお弁当があったらがんばれる。



## 「はじめてのウォールステッカー」

CHIKU 著 ビー・エヌ・エヌ新社  
754.9||C 44



壁に貼るだけで、気軽にお部屋の雰囲気を変えられるウォールステッカー。カッティングシートやマスキングテープを使って、自分好みにお部屋のおしゃれしてみませんか？



## 「ハンドメイド雑貨の作り方」

そらいろ絵本 編 玄光社  
750||So 54



自分の手作りを毎日にプラスすると楽しくなります。小さなものでも自分だけの特別なものになります。そんな雑貨のアイデアがたくさん。木にコラージュして作るWelcomeボード、作ってみたいです。



## 「プラバンアクセサリー」

文化出版局 編 福家聡子 デザイン・制作  
文化学園文化出版局 751.9||B 89



子どものころ、大好きだったプラバン遊び。こんなにかわいいアクセサリーが作れるなんておどろきです！型紙をなぞって、切って、トースターで焼いて、金具などを付けたらできあがり☆身に付けるとHappyになれるようなモチーフがたくさんです。






## 「ベランダ寄せ植え菜園」

たなかやすこ 著 誠文堂新光社

626.9||Ta 84

 小さなスペースでもおしゃれに野菜を育てられます。寄せ植えにすることで、省スペースで見た目に楽しいだけでなく、植物の力を引き出す秘密がありました。




## 「イラスト&写真で見る

## 多肉植物の楽しみ方と育て方」

古谷卓 著 日東書院本社

627.78||F 95


 気になるタニク。トゲトゲ、プニプニ、つやつや、さらさら、個性的なフォルムや質感に惹かれます。種類ごとに水やりのタイミングなどがわかる栽培カレンダー付きで安心。お気に入りの多肉と仲良く暮らすコツがつかめます。



## 「草の辞典 野の花・道の草」

森乃おと 著 雷鳥社

472.1||Mo 59


 散歩のお供に、手の平にじっくりなじむこの本があれば最高です。スミレ、タンポポ、ツクシ、シロツメクサ…小さな図鑑を片手に野の花を探し歩いた子どものころを思い出して優しい気持ちになりました。



## 「わくわく城めぐり」

萩原さちこ 著 山と溪谷社

521.823||H 14


 小2で城に魅せられた城メグリリストがおくる34の城旅。どこを見たらいいの?という疑問にこたえてくれる【城メグポイント】を参考に城めぐりを楽しもう♪



## 「ロープウェイで山歩き」

柘出版社

291.093||R 67


 登山と思うとちょっとハードルが高いけど、ロープウェイを使うと山に気持ちが近づける気がします。ロープウェイを使った分、景色や写真にグルメなどを楽しむ余裕もできそうです。絶景の数々、これは行きたい!



## 「京都のちいさな美術館めぐり」

岡山拓, 浦島茂世 著 G.B.


706.9||O 47

 京都にこんな美術館があるなんて、知らないと損! 静かな空間を味わったり、現代アートに刺激を受けたり、マンガミュージアムも! それぞれに魅力的なコンセプトがあり、庭園や茶室が併設されている所が多いのも京都ならではです。



## 「プチすいぼく やさしい水墨画入門」


小林東雲 著 広済堂出版  
724.1||Ko 12

 親しみやすい水墨画、それがプチすいぼく。6つのプチテクを組み合わせて、身近にあるものを水墨画で書いてみましょう。濃淡で表現された絵は、部屋に飾ったり、プレゼントにしてもおすすめです。



## 「新装版 ひふみんの将棋入門」


加藤一三 著 産経新聞出版  
796||Ka 86

 14歳で中学生棋士としてデビューし、77歳で引退されたひふみんこと加藤一三さんが将棋を教えてくれる一冊です。コラムでは、ひふみんが語る将棋の魅力にも触れられます。



## 「インドアボルダリングBOOK」


柘出版社  
786.16||P 31

 2020年東京オリンピックの競技種目としても注目を集めるボルダリング。ボルダリングは「フリークライミング」の一種で岩などをのぼるスポーツです。クライミングの基本から、トップクライマーからのアドバイス、ジムガイド、靴やウェアの情報までつまった一冊。



## 「いちばんやさしい楽譜の読み方」


小林一夫 著 池田書店  
761.2||Ko 12

 楽譜が苦手なあなたも大丈夫。本の解説にプラスして実際にCDを聞きながら楽譜を紐解くと、今までと違った音の楽しみに出会えるはずですよ♪



## 「ギター・コードを 覚える方法とほんの少しの理論」


いちむらまさき 著 リットーミュージック  
763.55||I 15

 ギターのコード、色々ありすぎて複雑で覚えられません(\*\_\*)そんな時はこの本！コードを導く7つのルール。魔法の言葉は「こんばんみ」!?章の終わりのコラムにもヒントがもらえます。



## 「学校では教えてくれない 人生を変える音楽」

雨宮処凛 ほか 著 河出書房新社  
760.8||A 42

 各界の26人が語る音楽。それぞれの音楽への思いを知ると、知らない曲も聞いてみたくなる♪知っている曲も違う一面を発見できる♪この本に人生を変える音楽があるかもしれません。そして図書館に人生を変える一冊があるかもしれません。



# Book design

## の世界

vol. 1

鈴木成一さん

(鈴木成一デザイン室)

本を選ぶ時、表紙や本のデザインに惹かれて選ぶことがあります。ジャケ買いです。本を開くと書いてある「装丁」という言葉と名前。気になっていつもチェックしています。

本の外装をデザインする仕事を装丁家やブックデザイナーと言います。この「Book designの世界」では、本のデザイン、装丁家の仕事から、本の楽しみ方をご紹介します。第1回目のテーマは鈴木成一さんです。

鈴木成一さんは、大学在学中から装丁の仕事を始め、1992年に鈴木成一デザイン室を設立されます。1994年には第25回講談社出版文化賞ブックデザイン賞を受賞されました。著書『装丁を語る。』『デザイン室』(共にイースト・プレス)『デザインの手本』(グラフィック社)を刊行されています。これまでに装丁を手がけた本数は10000冊以上という日本を代表する装丁家です。

始めにご紹介するのは『桐島、部活やめるってよ』(朝井リョウ著/集英社/2010年/913.6||A 83)です。映画化されたこの本も鈴木成一デザイン室の装丁なんです。写真は、高校生を撮り続ける写真家によるもの。男子高校生の横顔からドラマが見える気がしませ



写真：小野啓

んか？今ここにある感情が伝わってくる装丁です。

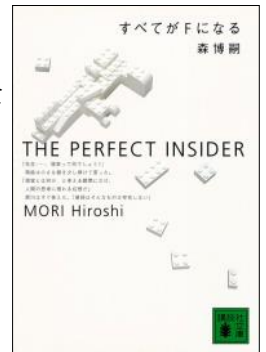
4月から始まるドラマの原作の装丁も鈴木さんの手によるものなんです。『ブラックペアン1988』(海堂尊著/講談社/2007年/913.6||Ka 21)。手術用具のペアン鉗子のシルエットが浮かび上がるクールな装丁です。



カバーCG：桑原大介

## 『すべてがFになる The perfect insider』

(森博嗣著/講談社/1998年/913.6||Mo 45)は、全10冊のS&Mシリーズの第一巻目にあたります。白いブロックで作られたFの文字。少しいびつなところに目を惹かれます。また英語タイトルの方が日本語タイトルより大きく配置されているのもかっこいいです。このシリーズのその他のカバーにも、物語に登場するアイテムが真っ白になってデザインされているので、こちらも見てもらいたいです。



装画作成・写真：岩田和美



装画：「幼い記憶」中村弥

## 『罪の声』(塩田武士著/講談社/2016年/

913.6||Sh 77)には、「幼い記憶」という装画が使われています。文字の配置からも作品の持つシリアスな空気が伝わってきます。本をめくる覚悟を問われているかのようです。

## 『教団X』(中村文則著/集英社/2014年/

913.6||N 37)のカバーには「Vertical007」という作品が使われています。本書の厚みと同じくらい重厚感のある装丁です。タイトルがこちらに迫ってきます。



カバー作品：「Vertical007」桑島秀樹



「装丁って、手元の素材をどう調理して皿に盛るか、みたいなこと  
 ですよ。」と、鈴木さんは著書の中で語られています。



装画・挿絵：西加奈子

次は、『まぐ子』(西加奈子著/福音館書店/  
 2016年/913.6||N 81)。著者による装画・挿絵が使  
 われていて、世界観が全面に活かされています。寝  
 る前に読んで電気を消した時、すてきなことが起こ  
 るかも。そんなしなやかなブックデザインの楽しみの  
 一つです。

『サブマリン』(伊坂幸太郎著/講談社/2016年/  
 913.6||I 68)は、2004年刊行の『チルドレン』の続編  
 です。前作と同じく、宗誠二郎さんの装画です。ざら  
 ざらしたカバーの紙の質感が本の雰囲気にとってもよく  
 合っています。同じシリーズものを同じ装丁家が手が  
 ける幸福感。となりに並べるのが楽しいです。



装画：宗誠二郎



装画：Cabinets

『天使はここに』(朝比奈あすか著/朝日新聞出版  
 /2015年/913.6||A 82)は、ファミレス「Angel's  
 Dining」を舞台にした作品です。ファミレスの制服  
 を着てほほえんだ女性の表情に安心感を持って本の  
 世界へ導かれる装丁です。

最後に、川村元気さんの作品から3冊ご紹介します。

『世界から猫が消えたなら』(川村元気著/マガジンハウ  
 ス/2012年/913.6||Ka 95)。ソファから猫がこちらをのぞ  
 いている姿に心を掴まれます。タイトルの控えめな配置  
 に、何とも言えない切ない気持ちになります。



『仕事。』(川村元気著, 山田洋次 ほか述/集英社/  
 2014年/281.04||Ka 95)は、文字だけで構成された表紙。お話を聞いた12人の巨匠の名前がそれぞれ色を変えてあり、その色



が巨匠のポートレートの背景色にもなっています。さら  
 にその色がカラフルなラインとなって本の小口(側面)に  
 現れます。色をインデックスのように使えて、巨匠の話  
 へ直観で辿りつけます。装丁はカバーだけでなく、本と  
 いう立体全体をデザインするものだとわかる一冊です。

『四月になれば彼女は』(川村元気著/  
 文藝春秋/2016年/913.6||Ka 95)は、仮フランス装と  
 いうタイプの装丁で、天(本の上部)を切り揃えない状態で  
 仕上げられています。ボリビアのウユニ塩湖で書かれた  
 手紙から始まるこの作品。空と水面に映る空とひとり、  
 そんな淡い写真の中に白い文字が置かれています。白な  
 のにきちんと映える、絶妙なバランスに感動します。



写真：Tomas Rawski

「装丁には正解がある、と私は思っていました、原稿を読めば、「本  
 としてこうなりたい」というかたちがやっぱりあるわけですよ。個性を  
 ちゃんと読み込んで、かたちにする。飾りで読者の気を惹くのではな  
 く、その本にとっての一番シンプルで必要なものを明確に演出する。」  
 そんな鈴木成一さんの言葉の通り、今回ご紹介した本も、それぞれのあ  
 るべき姿が表現されている本ばかりでした。これからも本と装丁の関係  
 を楽しんでいきたいと思えます。

参考・引用文献：『装丁を語る。』『デザイン室』(共に鈴木成一著/イースト・プレス)



## ちょこちょこ日記 #10 「趣味ノート」

春。そわそわどきどきな季節に『こんな本読んでみて』がちょっと新しくなりました。どうでしょうか？これからもよろしくをお願いします。

私はノートをつけるのが好きです。ここ1年書いているのは植物ノート。植物のタネや苗を植えた日からの成長記録をメモしています。小さく印刷した写真を添えて。そんなにマメじゃないので、芽が出たり花が咲いたり変化があった時だけです。成長する姿がかわいくてノートを眺めてほほ笑んでいます。一年後、数年後に振り返った時も、楽しそうです。もしも最後のページにたどりつかなくても、それはそれでいいかなと気軽に楽しんでいます。

小説『ペンギン・ハイウェイ』（森見登美彦 著／角川書店／913.6||Mo 54）に出てくるアオヤマ君の書くノートがすばらしいのです。私のノートの師匠です。

今号で紹介した「はじまりのタネ」本を見ていると何か始めてみたくなります。また新しい趣味ノートが増えそうです。

こんな本読んでみて No.70

2018年4月16日 発行

編集・発行 三重短期大学附属図書館

〒514-0112 三重県津市一身田中野157

<http://www.library.tsu-cc.ac.jp/>